

# 辺野古土砂北九州

発行…2023年2月号・No.38



沖縄では、各地で寒緋桜が咲いている季節ですね。辺野古新基地建設の反対運動をしているみなさんが、心から桜を楽しめる日が早く来ますように。

## 《目次》

【鹿屋・馬毛島】住民あざむき進む戦争準備(磨島昭広)……………	2 ページ
【連続エッセイ】民間外交で信頼関係を(浦島悦子)……………	6 ページ
インフォメーション……………	7 ページ

写真はネットから



発行 「辺野古土砂ストップ北九州」

鹿屋・  
馬毛島

# 「台湾有事」は「半導体有事」 住民あざむき進む戦争準備

鹿児島県護憲平和フォーラム 事務局長 磨島昭広

## ■米軍から鹿屋市に通達

2019年9月9日、鹿児島県鹿屋市の上空から1機の米軍空中給油機KC-130が飛来し、海上自衛隊鹿屋基地に着陸しました。2015年5月に防衛省が鹿屋市に説明した、米軍「空中給油機KC-130訓練」の日中・夜間の飛行及びタッチ・アンド・ゴーやオスプレイへの給油訓練が始まったのです。

しかし、2019年度の前定着陸訓練13回に対し実施は5回、地上給油訓練は1回、2020年度は前定着陸訓練6回に対し、実施は1回、地上給油訓練は0回、2021年度は前定着陸訓練、地上給油訓練ともに実施していません。

ところが、2022年1月に行われた外務・防衛の閣僚協議(2+2)で、海洋進出を強める中国を念頭に、警戒監視を強化するため「地理的条件を満たす」として、防衛省は、鹿屋基地に米軍の無人機部隊

を配備する方針を鹿屋市に通達しました。

期間は1年間、無人機「MQ9(リーパー)」8機、米軍関係者200人で運用や整備にあたり、関係者は鹿屋市内のホテルに宿泊すると具体的に示しました。この期間に係る費用は、当然、私たちの税金「思いやり予算」から拠出されます。

## ■米国から遠隔操作で飛行も可能だが…

この無人機は、長い航続距離と高い監視能力をもち、武器を装備すれば無人攻撃機に変わります。さらに、問題なのは飛行操縦で、離着陸は鹿屋基地内で行いますが、ある程度の高度に達するとアメリカ本土からの遠隔操作で飛行する代物です。昨今の電子戦などの妨害電波の攻撃を受け遠隔操作が利かない場合、墜落の可能性もあるとても危険な無人機なのです。このような無人機が市街地を飛ぶことは、市民の「安心・安全」を脅かすことになりかねません。

しかし防衛省は、昨年鹿屋市長選挙終了後の2月初めに鹿屋市に説明。その後米軍担当者が基地を訪れ、格納庫や宿泊施設などの現地調査行いました。

## ■鹿屋基地で無人機組み立て

中西鹿屋市長は、3月の市議会で受け



無人機「MQ9(リーパー)」

入れ方針を説明。6月には住民説明が行われ、8月からは鹿屋基地への無人機の資材搬入が始まりました。そして10月末までに、資材を載せた米軍C-17 大型輸送機が、アメリカ本土から直接35回も飛来しました。その後、基地内の格納庫で無人機の組み立てが順次始まり、11月5日には無人機によるデモフライトが行われ、同月21日「MQ9」が鹿屋基地を飛び立ち、予定より4カ月遅れて2023年11月20日までの運用が始ったのです。

米軍は運用開始から2日後には「無人機に関するすべての情報を自衛隊と共有する」と発表しました。穿った見方をすれば、「1年間無人機の運用を自衛隊員に施し、終了後には米軍は引き上げ、代わって自衛隊が運用する。当然、8機の無人機は防衛省が購入することになりはしないか。アメリカの中国内政干渉に加担し、片棒を日本が担ぐのではないか？」また、これまでのKC-130 給油訓練は「無人機配備のための布石だったので

は？」と疑念を抱くのは、私だけでしょうか。

## ■米国が台湾を固守する理由はただ一つ

岸田政権は「中国脅威論や台湾有事」で国民を煽り、軍事費をGDPの2%に引き上げ、拳句に「敵基地攻撃能力」を保有するとした、反撃能力を盛り込んだ外交・安全保障の長期指針「国家安全保障戦略」などの3文書を閣議だけで決定しました。しかし、日本政府はこれまで、台湾を主権国家と認めていません。

アメリカが台湾を固守する理由はただ一つ、台湾が持つ「世界1位の半導体技術」を中国に渡したくないだけで「台湾有事は、半導体有事」なのです。アメリカに従い「台湾有事」を叫び、中国をけん制することは、内政干渉に等しい行為ではないでしょうか。

また、日本の最大貿易国である中国と本気で紛争を起こせば、日本経済に与える影響は計り知れないものがあります。



鹿屋基地の格納庫でMQ9を組み立てる米軍関係者(米国防総省の配信サイトより)



今、政治がやるべきことは、外交努力を強化するべきで、軍事力強化に邁進することではありません。また、国の方針を閣議だけで決めるべきではなく、国会で十分な議論を尽くし、国民に説明して納得させる「合意形成」を図るべきです。それが政治家の仕事であり、責任です。

## ■「馬毛島」表面化から 15 年

鹿児島県内には米軍に関する課題が山積していますが、その中でも喫緊の課題は「馬毛島 FCLP 基地建設」問題です。

2022 年 11 月の鹿児島県議会本会議の冒頭で塩田知事は、種子島の無人島「馬毛島」への米軍空母艦載機陸上離発着訓練 (FCLP) 移転と自衛隊基地整備計画容認を、突然発表しました。2007 年 2 月の日米 2 + 2 で、FCLP の移転候補に「馬毛島」が表面化してから 15 年目を迎えた馬毛島基地建設は、新たなステージに入ることになります。

2010 年 12 月には屋久島、種子島を含めた熊毛地区の住民や行政、議会が猛反対の意思を防衛省に申し入れました。

この経過を踏まえて、防衛省は新たに自衛隊基地建設にすり替え、水面下で計画を進めてきました。

## ■住民をだまし続けた政治

2016 年 11 月に防衛省は、馬毛島の大半を所有する企業と売買を進めることで合意しましたが、翌 17 年 3 月には「失うものが多く、同意できない」と公約した八板俊輔氏が西之表市長選挙で初当選。2019 年 2 月には西之表市議会が米軍



馬毛島の工事開始に抗議する住民のみなさん

FCLP 建設の馬毛島売買交渉に反対意見を全会一致で可決しました。

しかし、防衛省はその年の 11 月に約 160 億円で馬毛島を買収。2020 年 10 月にはボーリング調査開始。2021 年 1 月には、基地建設に必要な様々な調査 (ボーリング調査・環境アセス・デモフライト) が終わらない状況の中、外周道路や基地建設に関する調査・検討・設計などの工事入札公告を、水面下で勝手に進めていました。

2021 年 2 月の市長選挙で八板市長が再選を果たすも、144 票差と賛成・反対が拮抗する結果となる中、防衛省は環境アセス方法書の縦覧を開始。12 月には岸田内閣が、馬毛島基地整備に 3,183 億円の 2022 年度予算案を閣議決定、併せて防衛省は、種子島の 1 市 2 町に、10 年間で総額 290 億円の米軍再編交付を伝達。2022 年 1 月の 2 + 2 で馬毛島を「整備地」として、正式に西之表市に基地建設計画を伝達し、基地本体工事の入札を開始したのです。

その後、2 月に八板市長が「特段の配慮」で交付金を受け取る意向を示し、4

月に環境アセス準備書公表。8月に馬毛島の葉山港の浚渫工事に着手。9月西之表市議会に「馬毛島旧小・中学校跡地を防衛省に売却する議案」を提出・可決、間髪を入れず防衛省が種子島1市2町を交付金対象に指定。10月に知事意見書を提出。11月には計画に反対する市民有志が八板市長のリコール手続きを申請。そして、今回の塩田知事容認発言となりました。

防衛省はこれまで、地元住民に「十分な説明を尽くしてまいります」と公言しながら、2019年からこれまで一度も、住民が納得する騒音や漁業補償などの説明をしていません。基地に関するすべての問題を小出しにすることで住民の不安を煽り、分断し、住民同士がいがみ合う環境を作りだし、今では、地域をはじめ、家庭のなかでさえ「馬毛島」の話ができない状況に陥っています。

## ■うなだれている暇はない

世界遺産の屋久島と隣接する種子島は、静かな環境に包まれ、移住者も多く、観光名所の島でもあります。南種子にはJ

AXAのロケット打ち上げ施設の種子島宇宙センターがあります。中種子はサーフィンのメッカで、一年を通してたくさんのサーファーが集い、シュノーケリングやダイビング、シーカヤックなど、自然を感じながらのアクティビティを満喫できます。観光客は、当然の移動手段として、高速船(トッピー)や飛行機を利用します。

仮に、馬毛島に基地が完成し、米軍及び自衛隊の訓練が実施されれば、当然、訓練中の期間は禁止区域が設定されることが予想されます。禁止区域が設定されることにより、種子島をはじめ屋久島の観光に大きなダメージを与えることが予想されます。

残念ながら反対住民の心配をよそに、防衛省は2023年1月12日に、馬毛島基地建設の本体工事に着手しました。うなだれている暇はありません。私たちはこれからも「馬毛島 FCLP 基地建設」に、反対の声をあげ続けていきます。

(まじまあきひろ)



写真は、内閣府の「日本の国境に行こう!!」プロジェクト推進事務局のHPから。種子島はサーフィンに適した環境で、プロ参加による全国大会も行われているようだ。

## 民間外交で信頼関係を

ヘリ基地いらな二見以北十区の会共同代表／フリーライター



最近、思い悩んでいる。

昨年末、安保関連 3 文書が、国民への説明どころか国会論議さえないまま、あっという間に閣議決定され、日本は坂道を転げ落ちるように戦争への道に踏み出した。琉球弧の島々は米軍のみならず自衛隊（日本軍と言いたい）が基地だらけとなり、ミサイルが次々に配備されていく。戦車や銃を剥き出しにした日米共同軍事演習が公道や民間施設を巻き込んで繰り返され、住民は「国民保護訓練」という名のミサイル避難訓練に駆り出されている。

信じられないほど加速するこの状況にどう対抗すればいいのか。沖縄県内では「再びの沖縄戦を許さない!!」と、多くの個人・市民団体が集まって、戦争に反対する全県組織の結成に向けた議論が重ねられ、集会も予定されている。それは必要かつ重要で、私も参加しているが、それだけでは、この怒涛のような動きを止めることは難しいのではないかという気がする。じゃあ、どうすればいいのかだろう…というのが私の悩みだ。

軍備増強の口実にされているのは「中国の脅威」や「北朝鮮の脅威」だ。国がいくら軍事基地を造り、武器を備えても、多くの国民を心身ともに動員しなくては戦争はできない。ミサイルより怖いのは、国

民の隣国に対する不信や憎悪だ。ミサイルや軍備増強に「反対」を叫ぶだけでは、「中国が攻めて来るかも…」「北朝鮮は怖い」と思いこんでいる人たちの心には届かないだろう。「脅威」は作られた虚構であり、中国は攻めて来ないし北朝鮮は怖くないと、納得できるように伝えられたら、戦争への道に歯止めをかけられるのではないか…。

日本は、中国や南北を含む朝鮮と、なぜ仲良くできないのだろうか？ 日本は中国や朝鮮との深いかわりの中で歴史を作ってきた。「この上もなくお世話になった恩人」を敵視し、仇で返すようなことをまたも繰り返すのか？ 「恩知らず」の日本人が多いのは、歴史教育の欠如から来るのだろうか、まずはこの不信や憎悪を溶かしたいと切に思う。

沖縄も含め私たちの身近に、中国籍や中国・朝鮮にルーツのある人たちがいるはずだ。まずは、その人たちと交流することから始められないか？ 国が軍備にのみり込んで外交を放棄している現在、全国津々浦々で、民間外交・自治体外交を活発にして隣国の人々との信頼関係を作っていきませんか？ !!

(うらしまえつこ)

## ■《連続学習会》第3弾「安保」学習ご案内(zoom)

○日時…《第1回》2023年2月18日(土)10時20分～11時50分

※今回は第3土曜日ですが、通常は第2土曜日に行います。

○テキスト…吉次公介著「日米安保体制史」岩波新書

○講師…天久泰さん(弁護士・当会顧問・沖縄出身)

○申し込み先…hts@mtc.biglobe.ne.jp 藤堂均まで

※申し込みは、前日までにお願いします。招待を送ります。



## ■先月署名用紙を同封していませんでした。申し訳ありません。

「辺野古新基地建設の断念を求める請願書名」の提出締め切りは、23年5月19日(金)です。送り先は署名用紙に記載されています。みなさんのご協力をお願いします。※当初の3月から5月に、締め切り日が延期になっています。

\*\*\*\*\* 8ページの編集後記の続きです \*\*\*\*\*

☹

その内容は、【『台湾有事』問題に火をつけたのは、2021年3月アメリカのインド太平洋軍司令官だったデービッドソン海軍大将の上院軍事委員会の公聴会での発言だ。「中国の脅威は6年以内に明らかになる」「中国は、ルールにのっとった国際秩序におけるアメリカのリーダーとしての役割に取って代わろうという野心を強めている、と私は憂慮している。2050年までにである」「その脅威はむこう10年、実際には今後6年で明らかになると思う」「中国は、資源の豊富な南シナ海大半の領有権を主張するだけでなく、アメリカ領のグアムを奪う構えすら見せている」という異様発言だ】というものです。

☹

そして高井さんの資料によると、その話には続きがあり、デービッドソン司令官の上司である、米軍制服組トップのミリー統合参謀本部議長が、米上院歳出委員会の公聴会に出席し、「中国が台湾全体を掌握する軍事作戦を遂行するだけの本当の能力を持つまでには、まだ道のりは長い」「(中国による台湾の武力統一が)近い将来、起きる可能性は低い」「中国には現時点で(武力統一するという)意図や動機もほとんどないし、理由もない」と、デービッドソン司令官の発言を打ち消しています(ただ、中国がいつ台湾を武力統一できるような軍事能力を持つかについては「不透明だ」としています)。

☹

高井弘之さんは、お話の最後の方で、「様々なところで国境を越えて反戦の人々がつながっている」「東アジアのピープルとして、東アジアの戦争を阻止し、東アジアの平和を実現していくことが大事」と語られています。私はここでTAC(東南アジア友好協力条約)の事を思い浮かべました。あっ!紙面が…。それでは、来月号の学習会の報告をご期待ください(できるかな…不安)。y

## 《辺野古土砂北九州・今後の予定》

- 2月18日(土)…《連続学習会・安保条約》 10時20分～11時50分 zoom
- 2月22日(水)…《世話人会》14時～ 生涯学習総合センター・21学習室
- 2月25日(土)…《小倉駅前街頭宣伝》16時～
- 3月01日(水)…《会報・発送作業》14時～ 生涯学習総合センター・情報学習室
- 3月11日(土)…予定《連続学習会・安保条約》 10時20分～11時50分 zoom
- 3月25日(土)…《小倉駅前街頭宣伝》16時～
- 3月29日(水)…《世話人会》14時～ 生涯学習総合センター・情報学習室

### 編・集・後・記

1月、私の身近なところで、平和に関する2つの学習会がありました。そのうちの一つは、会報でもお知らせした土砂全協主催の学習会です。

当日参加できなかった私は、「会報に学習会の報告を載せたいから」と、当日お世話をしてくれた末田一秀さんに無理をお願いし、一足先に動画を送ってもらいました。そして、100分近い講演を2回聞きましたが、その内容を数日でまとめるのは能力的に無理で、来月に持ち越しました(だから今月は急ぎよ8ページに)。

⌘

講演の中で、講師の高井弘之さんは、《『台湾有事』と言われ出したのは、今年の春ごろから》と、米インド太平洋軍のフィリップ・デービッドソン司令官の発言を紹介。私が参加したもう一つの学習会の講師・川田忠明(日本平和委員会常任委員)さんも、《台湾有事を言い出したのは中国ではない。米国が言い出した》と。そして、先月号の会報で真栄里泰山さんも、そのデービッドソンの発言を詳しく紹介しています。(続きは7ページに)

世話人  
連絡先

### 《辺野古土砂ストップ北九州》

メールアドレス…[hts@mtc.biglobe.ne.jp](mailto:hts@mtc.biglobe.ne.jp)

〒800-0117 福岡県北九州市門司区大字恒見122-3 藤堂方  
藤堂 090-6299-2608・南川 090-2853-7116・八記 080-1730-8895

2023年2月1日発行